

医療者のやさしさが詰まった コミュニケーションの本



医療者の心を贈るコミュニケーション —患者さんと一緒に歩きたい—

日下隼人 著

A5判/164頁 定価：本体1,800円＋税
医歯薬出版（2016年2月）

評・塚越芳子（歯科衛生士）



私は「一人ひとりの患者さんに寄り添った歯科治療のできる歯科衛生士でありたい」と願い、31年間、臨床の場にあります。そのためには、歯科治療に関する多くの知識や、精確な技術が必要なことはいまでもありません。しかし、それと同じくらい、患者さんとよりよい関係をつくるための“コミュニケーション”がとても大切だと実感しています。

そんな私が読んで、心を動かされたのが本書です。ただコミュニケーションのテクニックを伝えることに終始した内容ではなく、著者の日下隼人先生对患者さんに対する深い愛情とやさしさが随所に感じられたからです。本書では「医療者のあるべき姿」が、思いやりにあふれた言葉で綴られています。

日下先生は小児科の医師で、歯科医療従事者ではありませんが、本書は私たち歯科衛生士に

もわかりやすく書かれており、うなずけるところがたくさんあります。そして読めば読むほど日下先生の医療者としてのきめ細かな配慮が心にしみてきます。

本書は52の短編で構成されています。そのうちのいくつかのタイトルを紹介すると「敬語は温かい」「話の聴き方」「苦手な人にはていねいに」「説明するではなく『話し合い』——インフォームド・コンセント」「医療の場のコミュニケーション」など興味を引くものが多く、一編が3ページほどですので、読みやすい量にまとめられています。また、冒頭にその章の要約が書かれていて、先生が重要だと思われる言葉は太字になっているなどの工夫が施されています。さらに、「コメント」と称されたコーナーがところどころにあるのですが、先生が日々の臨床で感じたことなどを率直に書いてくださっていて、これを読むことで、その章全体の先生の言葉があらためて読者の心にスーッと入ってくるように感じました。

ちなみに、私にとってもっとも印象深かった内容は、先生が立てた治療の方針に従わず、民間療法を選んだ患者さんへの対応と、そのときの患者さんへの先生のやさしい思いが書かれた一編、「患者さん、その選択はダメですよ」でした。

若い歯科衛生士さんには、ぜひ、この本を繰り返し読んで、患者さんに接してほしい、また、ベテランの歯科衛生士さんには一度立ち止まって、日々の臨床の場での患者さんへの接し方がよいものであったかを、本書をとおして再確認してほしいと思いました。本書は経験年数や分野を問わず、患者さんとかかわるすべての歯科衛生士に薦めたい、すばらしい1冊です。